幅広い適用作物と優れた残効性。主要害虫の防除に！

BAYER

クミアイ

アドマイヤー®

水和剤

- 果樹や野菜等、幅広い作物に登録を有します。
- 優れた浸透移行性を有し、果樹や野菜のアブラムシ類を長期間防除します。
- 果樹（もも、なし、かき）のカメムシ類による果実被害を防止します。

ワタアブラムシ

モモアカアブラムシ

写真提供:愛媛県
果樹研究センター

チャノキイロアザミウマ

ミナミキイロアザミウマ

オンシツコナジラミ

製品情報の詳細は
こちらから

自然に学び自然を守る
クミカ

®アドマイヤーはバイエルグループの登録商標

クミアイ アドマイヤー® 水和剤

農林水産省登録 第18212号
有効成分：イミダクロプリド…10.0% 殺虫剤分類 4A
毒性：劇物

■適用害虫および使用方法

2021年10月現在の登録内容

作物名	適用害虫名	希釈倍数（倍）	使用液量	使用時期*	使用回数* 本剤	使用回数* イミダクロプリド	使用方法
りんご	アブラムシ類 キンモンホソガ ギンモンハモグリガ	1,000～2,000	200～700 ℓ/10a	3日 ※1	2回	2回	散布
なし	アブラムシ類	1,000～2,000					
	カメムシ類 チュウゴクナシキジラミ	1,000					
もも	アブラムシ類 モモハモグリガ	1,000～2,000					
	カメムシ類	1,000					
ネクタリン	アブラムシ類 モモハモグリガ	1,000～2,000		14日 ※1			
	カメムシ類	1,000					
ぶどう	アザミウマ類	1,000～2,000		21日 ※1			
	フタテンヒメヨコバイ	1,000					
かき	アザミウマ類	1,000～2,000		7日 ※1	3回	3回	
	カメムシ類	1,000					
うめ すもも	アブラムシ類	2,000		21日 ※1	2回	2回	
くり	アブラムシ類	1,000		7日※1	3回	3回	
マンゴー	アザミウマ類	2,000		14日	2回	2回	
稲（箱育苗）	イネドロオイムシ イネミズゾウムシ ツマグロヨコバイ ウンカ類	100	育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5ℓ）1箱当り0.5ℓ	移植2日前～移植当日	1回	3回（移植時までの処理は1回、本田での散布は2回）	灌注
湛水直播水稲	ツマグロヨコバイ ウンカ類	—	種もみ3kg当り150～200g（200g/10aまで）	は種前		3回（は種時までの処理は1回、本田での散布は2回）	過酸化カルシウム剤との同時湿粉衣
	イネミズゾウムシ		種もみ3kg当り200g（200g/10aまで）				
小麦	ヤギシロトビムシ		種子重量の0.15%			3回（種子粉衣は1回、散布は2回）	種子粉衣
ばれいしょ	アブラムシ類	1,000～3,000	100～300 ℓ/10a	14日	2回	3回（植付時の土壌混和は1回、植付後の処理は2回）	散布
		16	3.2 ℓ/10a				無人航空機による散布
きゅうり（施設栽培）	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類	2,000	100～300 ℓ/10a	前日	3回	4回（育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布および常温煙霧は合計3回）	散布
すいか	アブラムシ類 アザミウマ類			3日 ※2		4回（定植時の土壌混和は1回、散布は3回）	
メロン	アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類	2,000	100～300 ℓ/10a	3日 ※2	3回	4回（育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布は3回）	散布
にがうり（施設栽培）	アザミウマ類			前日	2回	2回（定植時の土壌混和は1回）	
トマト	アブラムシ類 コナジラミ類					3回（育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布は2回）	
なす	アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類					3回（育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布および常温煙霧は合計2回）	
ピーマン（施設栽培）	アザミウマ類 アブラムシ類					3回（育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布は2回）	
てんさい	テンサイトビハムシ アブラムシ類	60	ペーパーポット1冊当り1ℓ（3ℓ/m²）	定植時	1回	3回（種子への処理または灌注は1回、散布は2回）	灌注
茶	チャノキイロアザミウマ	1,000～2,000	200～400 ℓ/10a	7日		1回	散布
	チャノミドリヒメヨコバイ	1,000					
	チャノホソガ	2,000					
たばこ	アブラムシ類		100～180 ℓ/10a	10日		2回（植付時の土壌混和は1回、散布は1回）	

■常温煙霧

適用場所	作物名	適用害虫名	10アール当り使用量(g)	10アール当り使用液量(ℓ)	使用時期*	使用回数* 本剤	使用回数* イミダクロプリド	使用方法
温室、ガラス室、ビニールハウス等密閉できる場所	きゅうり	アブラムシ類	100	5	前日	3回	4回（育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布および常温煙霧は合計3回）	常温煙霧
	なす					2回	3回（育苗期の株元散布および定植時の土壌混和は合計1回、散布および常温煙霧は合計2回）	
	ぶどう	アザミウマ類	200	9	21日		2回	

※1 ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く
※2 ただし、露地栽培については着果後

*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫（摘採）前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

■注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきって下さい。
- ハウス等の常温煙霧に使用する場合は、次のことに注意して下さい。
  - ○専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧して下さい。特に常温煙霧装置の選定および使用に当っては病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
  - ○できるだけ日中の煙霧はさけ、夕刻から煙霧し、6時間以上密閉状態として下さい。
- 稲（箱育苗）に使用する場合、軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意して下さい。
- 稲（箱育苗）に使用する場合、誤って過剰に使用したり、本剤使用後3日以上移植せずに育苗箱中におくと葉枯れなどの薬害を生じることもあるので、所定の使用量、使用時期、使用方法を厳守して下さい。
- 稲（箱育苗）に使用する場合、本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきは丁寧に行い、移植後田面が露出しないように注意して下さい。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守って下さい。
  - ○ミツバチに対して影響があるので、関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めて下さい。
  - ○散布は散布機種の散布基準に従って実施して下さい。
  - ○散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用して下さい。
  - ○散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行って下さい。
  - ○散布薬液の飛散によって動植物の被害や自動車の塗装等に被害を与えるおそれがあるなど、各分野に影響があるので、散布区域内の諸物件に十分留意して下さい。
  - ○水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意して下さい。
  - ○散布終了後は次の項目を守って下さい。
    - ①使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄して下さい。
    - ②機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理して下さい。
- 湛水直播水稲に使用する場合は、次の項目を守って下さい。
  - ①本剤を直接もみに処理すると薬害を生じるおそれがあるので注意して下さい。
  - ②処理する薬量は種もみの量に合わせて調製して下さい。
  - ③過酸化カルシウム剤の3分の1程度をもみに粉衣した後に、過酸化カルシウム剤と本剤を混合したものを種子に湿粉衣して下さい。また、過酸化カルシウム剤の使用上の注意事項を守って下さい。
- ネクタリンおよびすももでは品種により、葉に薬害を生じる場合があるので注意して下さい。
- かきのカキクダアザミウマについて使用する場合は、巻葉後の散布では効果が劣る場合があるので注意して下さい。
- 蚕に対して長期間毒性があるので、絶対に桑葉にかからないようにして下さい。
- ミツバチおよび野生ハナバチ類に対して影響があるので、以下のことに注意して下さい。
  - ○ミツバチの巣箱およびその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないで下さい。
  - ○受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけて下さい。
  - ○関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めて下さい。
  - ○開花期終了後に使用する場合、適用作物の花弁の大部分が落下または乾燥するか、花が閉じてから使用して下さい。
  - ○施設栽培と記載のある作物に使用する場合、外部からミツバチおよび野生ハナバチ類が入らない形態の施設等で使用して下さい。
  - ○メロン、すいかの露地栽培の場合、着果後は可能な限り摘花に努めて下さい。
- マルハナバチに影響があるので、本剤使用後は他の方法（人工授粉、植物ホルモンなど）で授粉作業をして下さい。
- 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせ調節して下さい。
- 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 医薬用外劇物なので、取扱いには十分注意して下さい。誤って飲み込んだ場合には吐きだせず、直ちに医師の手当をけさせて下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けて下さい。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、散布液調製時および散布の際は保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意して下さい。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けて下さい。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意して下さい。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落として下さい。
- 使用の際は防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用して下さい。作業後は手足、顔などを石けんでよくい、うがいをするとともに洗眼して下さい。
- 常温煙霧の薬剤処理中はハウス内に入らないで下さい。また、薬剤処理終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室して下さい。
- 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用して下さい。
- 散布後は水管理に注意して下さい。
- 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意して下さい。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきって下さい。散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないで下さい。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理して下さい。
- 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した鍵のかかる場所に密封して保管して下さい。

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。　●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。　●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

2020(21-10)

JAグループ
農協 全農 経済連
全農 は登録商標　第4702318号

自然に学び 自然を守る
クミアイ化学工業株式会社
本社：〒110-8782 東京都台東区池之端1-4-26 TEL.03-3822-5036
ホームページアドレス　https://www.kumiai-chem.co.jp